

大規模災害時 受援計画

(上水道編)

尾道市上下水道局

令和7年4月

目次

【 1 】 大規模災害時の受援計画の目的	P1
(1) 計画の目的	
(2) 計画の構成	
(3) 上下水道局危機管理計画との関係	
(4) 上下水道事業業務継続計画（BCP）との関係	
【 2 】 災害時における尾道市上下水道局の体制	P2
【 3 】 受援組織	P4
(1) 受援係設置基準	
(2) 受援係の構成	
(3) 応援要請	
【 4 】 受援係業務タイムスケジュール	P6
【 5 】 応援隊の受け入れに当たっての基本的事項	P8
(1) 応援隊の集合場所	
(2) 応援隊受け入れ手順	
(3) 宿泊施設の確保	
(4) 食糧・燃料の確保	
(5) 事務機器の携行	
【 6 】 応急給水作業に当たっての留意事項	P9
(1) 応急隊責任者の業務	
(2) 応急給水作業の役割分担	
【 7 】 応急復旧作業に当たっての留意事項	P11
(1) 支援団体等の業務	
(2) 応急復旧の手順・確認事項等	
【 8 】 尾道市水道施設の特徴	P13
(1) 上水道の構造及び特徴	
(2) バルブ類の特性	
(3) 給水管の特性	
【 9 】 応急給水活動に関連する避難場所の一覧	P15
【10】 尾道市上下水道事業の概要等	P15

【1】大規模災害時の受援計画の目的

(1) 計画の目的

尾道市上下水道局では、尾道市域において災害救助法が適用されるような大規模災害が発生した場合、国・広島県・近隣市水道事業体のほか日本水道協会及び民間団体等（以下、「支援団体等」という。）と締結している災害時相互応援協定に基づき、支援団体等に対し応援要請をすることとしています。

本計画は、尾道市上下水道局が支援団体等から応急給水及び応急復旧の応援隊（以下、「応援隊」という。）の受け入れにあたり、上水道の構造や特色を記すことで、事前準備をスムーズに行い、到着後迅速かつ円滑に応援体制が確立できるように本計画を策定しています。

(2) 計画の構成

本計画は、尾道市上下水道局が検討している応援隊の受け入れに当たっての基本的事項、応援組織に関すること、応援作業時における留意事項、様式集等から構成されています。

なお、浄水施設・送水施設・配水施設などの基幹施設は、基本的に尾道市上下水道局が復旧することし、応急給水及び管路の応急復旧等を応援隊に協力要請することとしています。

(3) 尾道市上下水道局危機管理計画との関係

尾道市上下水道局では、地震・津波、風水害、渇水、水質汚染、凍結、テロ等の発生により水道施設に被害や障害により市民へ安定給水ができない場合、その対応について、「尾道市上下水道局危機管理計画」（以下、「危機管理計画」という。）で対応することとしています。しかし、支援していただく各事業体の行動等を記したものがなく、本計画では、支援していただく内容を細かく記載することで、受援体制を確立し円滑な復旧・復興に繋げる行動計画にしています。

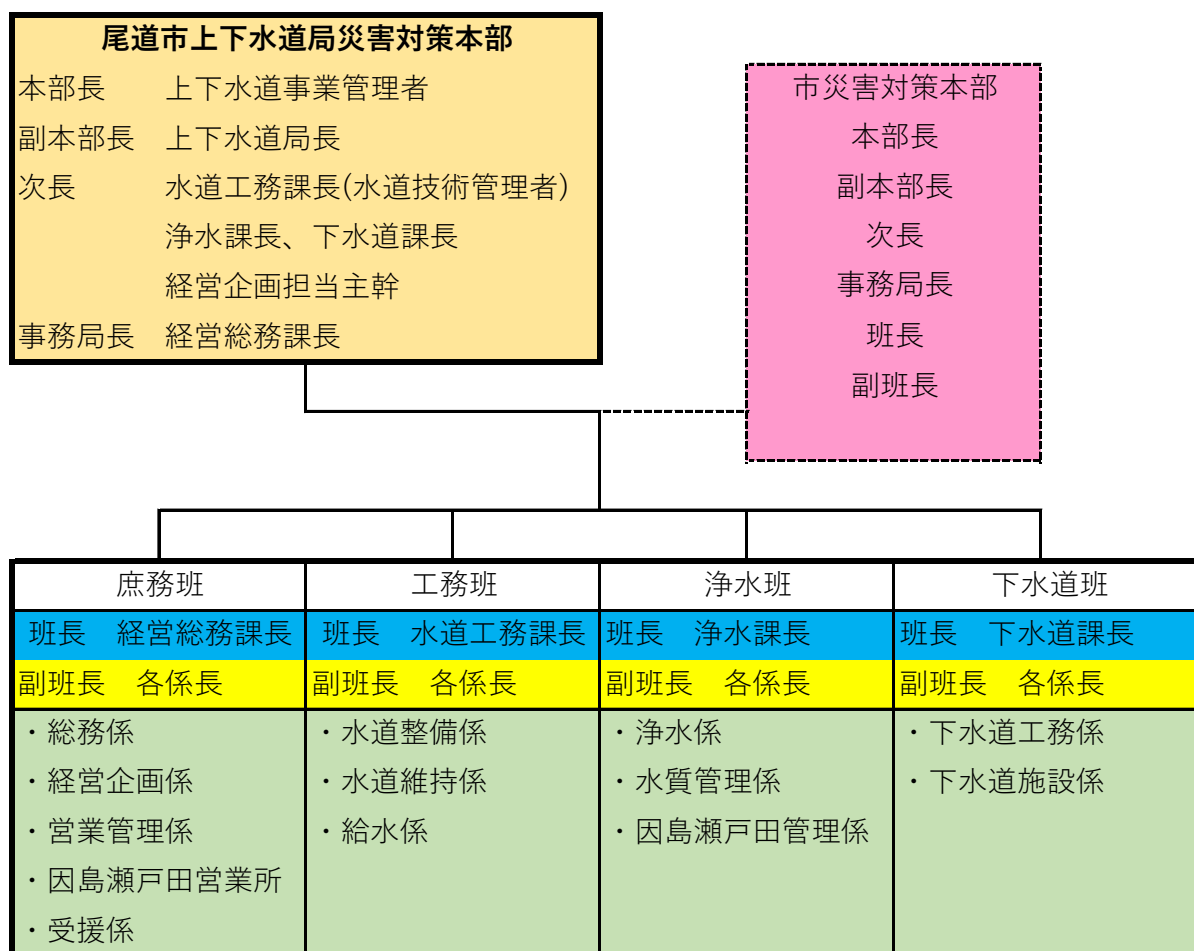
(4) 尾道市上下水道事業業務継続計画（BCP）との関係

災害が発生した場合、支援団体に応援要請を行う際には、原則として尾道市上下水道事業業務継続計画（以下、「上下水道局BCP」という。）に基づき、応急給水・応急復旧に必要な応援人数・班数を要請することとしています。

災害が発生後、支援団体に応援要請を行う場合、原則として危機管理計画や上下水道BCPと整合を図り、受援行動を行うこととしています。

【2】 災害時における尾道市上下水道局の体制

尾道市上下水道局災害対策本部の編成は次のとおりです。



図－1 尾道市上下水道局災害対策本部組織図

上下水道事業管理者は、尾道市上下水道事業の有機的な応急活動を実施するため、上下水道局に「上下水道局災害対策本部」（以下、「局災対本部」という。）を設置します。

なお、尾道市に「尾道市災害対策本部」（以下、「市災対本部」という。）が設置されたときは、局災対本部は市災対本部の上下水道部として災害対応に従事します。

本市だけで災害対応できない状況であると判断された場合は、迅速に支援団体に要請を行います。その時点で、経営総務課内に受援係を設置します。

市災対本部が設置され、局災対本部の決定指示により上下水道BCPに基づき災害対応を行います。

◎本部組織

- ①本部長は、局災対本部の事務を総括し、各部の職員を指揮監督します。
- ②副本部長は、本部長を補佐し本部長が不在あるいは事故があるとき、その職務を代行します。代行順位は上下水道局長、水道工務課長、経営総務課長の順とします。
- ③本部員は、本部長の命を受け、各班を指揮監督します。

◎班編成・班長・職務

①庶務班 班長：経営総務課長

- ・情報収集、広報、国・県・警察・消防・市長部局との連絡調整等
- ・受援係長は総務係長とします。
- ・応援要請 原則として市災対本部の決定に基づき要請します。しかし、時間的に猶予がない場合、局災対本部が要請することができます。
- ・各班の担当業務は次のとおりです。

庶 務 班：応援隊の受け入れ、本部との連絡調整、事務機器の提供、食料宿泊手配、野営地の調整管理、各種情報提供等

工 務 班：応急給水計画の作成、復旧資材の提供、復旧方法の指導等
給水装置基準の指導、復旧現場への案内

浄 水 班：応援場所・補水地点への案内、配水施設・水系の説明

下水道班 ：市災対本部へ情報収集・調整及び応急給水拠点の状況把握

②工務班 班長：水道工務課長

- ・断水地域に対する応急給水活動、応急給水拠点の設置、応急給水の人員配置
- ・配水施設の応急復旧に関すること
- ・洗浄、排水作業に関すること

③浄水班 班長：浄水課長

- ・水源及び浄水施設の災害・事故に関すること
- ・水質管理に関すること

④下水道班 班長：下水道課長

- ・下水道施設の安全を確認後、庶務班・工務班の補助的業務に関すること

※応援要請先

- ・日本水道協会広島県支部水道災害相互応援対策要綱（日本水道協会）
- ・災害時における応急対策活動協力に関する協定（尾道管工事協同組合）
- ・災害時における相互応援協定（松江市・福山市）
- ・災害時における応援協力に関する協定（フジ地中情報株式会社広島支店）
- ・災害時等における水質検査の相互応援に関する協定（広島市・福山市・呉市）

三原市・府中市及び広島県)

- ・災害時の緊急対応に係る応援に関する協定（株式会社水みらい広島）
- ・水道事業における災害等発生時の相互応援に関する覚書（三原市・福山市・府中市・世羅町・神石高原町・笠岡市及び井原市）連携市町
- ・災害時における復旧支援協力に関する協定（公益社団法人日本下水道管路管理業協会）
- ・尾道市・日本下水道事業団災害支援協定（日本下水道事業団）
- ・災害時における応急対策業務に関する協定（株式会社クボタ中四国支社）
- ・災害時における相互応援協定（今治市・南部町）

【3】 受援組織

応援隊の受入れは、受援係を中心に対応します。

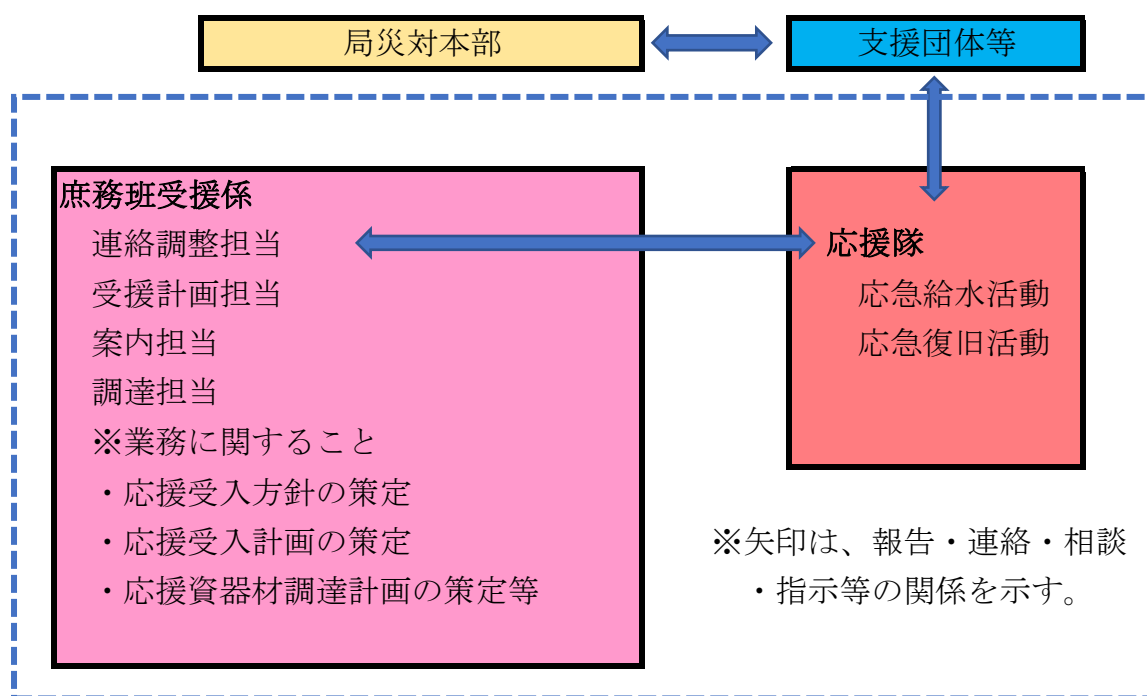
(1) 受援係設置基準

- ①「市内で震度6弱以上の地震の発生」においては自動設置
- ②「市内で震度5強・弱の地震発生」においては、被災規模によって市災対本部で検討し、要請する場合は受援係を設置します。

(2) 受援係の構成

受援係の構成は、次のとおりです。

下図は、受援係と支援団体等との関係を示しています。



図一 2 受援係応援隊関係図

※災害の規模により、各支援団体を統率する幹事団体を支援団体の中から選定し、各支援団体の取りまとめ及び本市との連絡調整を依頼する場合があります。

(3) 応援要請

① 応援要請は、局災対本部庶務班（受援係）より各協定に基づき各支援団体等に行います。応援を求める内容（人的支援要請、応急給水、応急復旧、資材調達など）や数量を整理の上、各団体に要請することとしています。

② 応援要請順序は以下のとおりとします。

【上水道災害時】

- i 日本水道協会広島県支部長市（呉市）
- ii 相互応援協定先（福山市・松江市）
- iii 尾道市相互応援協定先（今治市・南部町）
- iv 尾道管工事協同組合、フジ地中情報㈱中国支社、㈱水みらい広島等

③ 応援要請する基準は次のとおりとする。

- i 長江浄水場の場内施設が被災し、浄水処理が不能になり、広範囲かつ長期にわたる断水及び給水制限が想定される場合
- ii 広島県用水供給事業の施設及び管路が被災し、浄水処理が不能になり、広範囲かつ長期にわたる断水及び給水制限が想定される場合
- iii 断水・漏水（路面漏水、屋内漏水）・停水等の対応要請や応急給水依頼の電話が殺到し、市内全域から苦情・クレーム等の情報が寄せられた場合
- iv 貯水施設、導水施設、取水施設が被災して浄水場が運転停止が余儀なくされ、広範囲かつ長期にわたる断水及び給水制限が想定される場合
- v 停電が長期化し、各ポンプ施設が運転停止になり、広範囲かつ長期にわたる断水及び給水制限が想定される場合
- vi その他、市及び局災対本部において応援要請が必要であると判断した場合

※ i ～ vi のうち一つでも該当すれば応援要請を行います。

※ 長期にわたる断水及び給水制限とは、概ね 3 日以上を想定しています。

【本市の受援事例】

① 平成 6 年 7 月 13 日から平成 6 年 9 月 9 日まで

異常渇水による時間給水制限【旧尾道市全域】：事業年報 P 26 参照

② 平成 30 年 7 月 7 日から平成 30 年 7 月 21 日（15 日間）

西日本豪雨災害による市域ほぼ全域にわたる断水（浦崎町・百島町を除く）

応援自治体・応援企業：事業年報 P 27 参照

【4】 受援係業務タイムスケジュール

(発災当日)

- ①被災状況確認－被害大（浄水課・水道工務課調査報告）
- ②断水・給水制限の状況確認－広域・長時間の断水大（調査の結果）
- ③局災対本部設置
- ④市災対本部設置
- ⑤受援係設置の決定
- ⑥管工事組合、㈱水みらい広島、フジ地中情報㈱との連絡体制の確保
- ⑦被災状況・断水・給水制限等から支援要請の要否の判断（本部長）
- ⑧被災状況内容を県及び日水協広島県支部（呉市）へ連絡
- ⑨受入場所の確保（上下水道局庁舎）尾道みなと小学校グラウンドを臨時駐車場に使用するため教育委員会及び小学校へ要請



(1～3日目以降)

応援要請の決定

- ①支援要請の内容を県及び日水協広島県支部（呉市）へ連絡
- ②支援協定先への応援要請の依頼
- ③局職員による応急給水の実施
- ④自治体の応援隊により応急給水エリアの拡大（最大20箇所へ）
- ⑤応援隊の宿泊準備等（応援隊は自ら宿泊所を確定する）



(4～7日目以降)

- ①大規模漏水修理（市内業者委託対応）
- ②応急復旧隊による配水管・配水支管の調査及び修理
- ③備蓄資材及び購入品の管理（水道維持係）



(8～30日目以降)

- ①給水管等の小規模漏水の調査（応援隊）
- ②給水管等の小規模漏水の修理（指定工事店・管工事組合）

応急給水作業

給水箇所	対応
災害拠点病院・透析病院 医療機関等	局所有給水車 2 台 応援隊による応急給水 10 台
応急給水拠点 20 箇所 指定避難所 福祉施設	自衛隊若しくは応援隊 10 台 応援隊による応急給水 5 台
合計	27 台

発災 3 日後の応急給水作業必要人員は、148 人（BCP P51 参照）
局参集職員 69 名

水道工務班 $148.0 \text{ 人} - 21.0 \text{ 人} = 127.0 \text{ 不足}$ （補充が必要）

応急給水不足人員 127.0 人 ⇒ 応援要請人数

※尾道管工事組合・(株)水みらい広島・フジ地中情報(株)へ依頼後、不足人数を日本水道協会へ要請します。

応急復旧作業班体制

修繕箇所	対応
大規模漏水修繕	市内業者へ委託工事 最大10班編成／日
小規模漏水修繕 配水管・配水支管	応援隊により調査及び復旧 最大10班編成／日
修繕業務	最大20班体制(計80人)

※1 班当たり人員 3～5 人体制 $4 \text{ 人} \times 20 \text{ 班} = 80 \text{ 人}$

【5】 応援隊受け入れに当たっての基本的事項

(1) 応援隊の参集場所

応援隊指揮車の第1次集合場所は、『尾道市上下水道局庁舎前駐車場（尾道市長江3丁目6番52号）』とします。なお、他の車は『尾道市立尾道みなと小学校グラウンド（尾道市長江3丁目8番）』へ駐車し、隊長の指示により次の業務依頼場所へ移動します。

なお、小学校の駐車場が使用できない場合は参集場所を変更します。

連絡先は、尾道市上下水道局経営総務課（0848）37-8700です。

(2) 応援隊受け入れ手順

①尾道市上下水道局受援係は、応援隊到着時に、応援隊団体名、応援隊の体制、責任者、車両、資器材、カーナビケーション、ETC等の装備の確認を行います。

応援隊からの報告は、様式—12【応急給水応援体制報告書】、様式—17【応急復旧応援体制報告書】をご使用ください。

②尾道市上下水道局受援係は、応援隊の責任者に対して活動拠点、被害状況、作業場所、作業内容、本局担当責任者、経路等をご説明します。

(3) 宿泊施設の確保

宿泊場所につきましては、できる限り応援事業体において確保するようお願いいたします。なお、本局受援係連絡調整担当は、宿泊可能な市有施設や民間施設等の情報を提供します。野営の設営は、基本的に考えていません。しかし、被災の状況次第で野営が必要と判断した場合、尾道東・西公園、向島運動公園（B＆G）を候補地として考えています。

(4) 食料・燃料の確保

食料については、被災状況により提供できない事態が想定されるため、できる限り応援事業体において確保をお願いいたします。確保が困難な場合は、本局受援係から食料が確保できる店舗情報の提供に努めます。

また、燃料についても同様に情報提供しますので応援事業体にて燃料確保をお願いいたします。

(5) 事務機器の携行

パソコンや通信機器などの事務機器は、可能な限り応援事業体による自己携行するようお願いしています。ただし、受援期間中に急遽必要になった事務機器等あれば、本局受援係までご相談ください。提供可能なものがあれば提供します。

【6】 応急給水作業に当たっての留意事項

(1) 応援隊責任者の業務

1) 責任者の役割

- ・ 応急給水の体制について、応援隊は受援係と協議調整して方針決定
- ・ 到着時及び班編成時または変更時に様式—12【応急給水応援体制報告書】を受援係連絡調整担当に提出して下さい。

2) 応援開始時の協議・調整事項（②、③は必要に応じて日々協議・調整）

- ① 体制 ☐ 給水タンク車等の台数、容量(2 t・4 t)、班員(人員数)
☐ 交代時間 ☐ 給水容器の有無 ☐ 広報手段の有無
☐ 通信連絡手段(ライン・携帯電話) ☐ 連絡窓口
- ② 給水場所 ☐ 応急給水場所 ☐ 運搬給水基地(水補給場所)
- ③ 給水方法 ☐ 給水方式(定点給水・巡回給水)
☐ 配置設備(タンク車設置または仮設水槽)
☐ 給水容器の配置
- ④ 指揮系統 隊長⇒副隊長⇒給水要員⇒事務担当

3) 日々の協議・調整事項

- ① 確認事項 ☐ 給水活動の必要性 ☐ 運搬給水量の妥当性
☐ 給水タンク車の追加等
☐ 受援係より様式—13・14【応急給水作業指示書・報告書】
- ② 報告事項 ☐ 給水場所 ☐ 運搬頻度 ☐ 状況 ☐ 要望
☐ 状況写真(必要に応じて)
【提出書類】
・ 様式—15【応急給水作業集約書】
- ③ 協議事項 ☐ 翌日の給水場所の決定 ☐ 頻度 ☐ 資器材等

(2) 応急給水作業の役割分担

1) 役割分担

① 給水基地担当—給水基地で応援事業体の給水車に水を補給

交通の利便性が高い配水池及び給水基地(13箇所)

尾①長江浄水場、尾②山波配水池、尾③大山田配水池

尾④高頭配水池 尾⑤市民病院西南空気弁 尾⑥池田山配水池

尾⑦江奥配水池 因①田熊第1配水池 因②田熊第2配水池

瀬①林ポンプ場消火栓 等

給水基地では本局職員が常駐し、給水車に補水します

原則、本局職員が基地を担当しますが、応援団体に依頼する場合があります。なお、本市給水基地が使用不能になった場合、隣接事業体(福山市・三原市・府中市)から補水の確保に努めます。

- ・給水袋は局で準備しますが、原則容器は持参する呼び掛け
- ・補水に時間がかかる場合、予め再開時間を通知
- ・給水車から運ばれた水の残留塩素濃度の確認
- ・給水栓の設置に伴い、応急給水活動を縮小する旨の通知
- ・応急給水活動は、災害協定締結している企業から支援を求めることから、おもてなしの心で接客の徹底

①応急給水の場所や予定時間、断水解消見込みなどの情報をＨＰ・ＳＮＳを活用し、市民に対してきめ細やかに提供

②水の保管・保存方法について周知

優先順位は、災害拠点病院⇒透析病院⇒福祉介護施設(特養)⇒個人病院
災害弱者救済の観点から、優先順位どおり応急給水活動を実施します。

[illegible]

【7】 応急復旧作業に当たっての留意事項

まず、応援隊の責任者の方は、到達時及び班編成時に様式－17【応急復旧応援体制報告書】を受援係連絡調整担当へ提出してください。

(1) 支援団体等の業務

1) 支援団体等の役割

応急復旧は、本市職員だけでは対応しきれない業務を応援隊の協力を得て、迅速に水道の機能を取り戻す役割があります。

・ 役割（以下の3ケースを想定しています）

①本市職員が同行し共同で復旧作業に当たる場合

本市職員（工務班）がバルブ操作・広報・資材運搬等を担当し、応援隊が復旧工事を行うケース

②本市が指定した区域において、復旧作業の計画立案から実施までを全面的に担当する場合

本市職員（工務班）と早朝ミーティングを行い、進め方や予定を確認後、現地で修繕業務を行う

③給水管の復旧は、道路部・民地部で区分し、報告書で修理する場合 様式－23.24【給水管被災状況及び修繕報告書】により主に原形復旧

2) 応援開始時の協議・調整事項

①体制 ☐ 班員数（人員数） ☐ 交代時期 ☐ バルブ操作の可否
 ☐ 施工業者との契約 ☐ 通信連絡手段等

②復旧対象

☐ 復旧対象管路の確認 ☐ 復旧順路

☐ 復旧方法（局職員同行 o r 区域指定 o r 作業指示書

③資器材の準備状況

☐ 仕切弁キー ☐ ダンプの有無 ☐ 重機（持込・リース）

☐ 漏水探知機 ☐ 止水栓キー ☐ カメラ ☐ ホワイトボード

※本市が準備する資器材

☐ 管類 ☐ 弁類 ☐ 特殊材料 ☐ 埋め戻し材

☐ 舗装材

④復旧方針（修繕範囲・修繕材料等）

⑤本市が指定する配・給水管材料の確認

⑥特殊材料の使用の確認（割りジョイント、袋ジョイント等）

⑦被災状況確認資料（漏水状況・復旧状況他）

⑧指揮系統の確認

3) 終日報告事項(応援隊⇒受援係)

☐ 本日の復旧済み管路 ☐ 本日の通水済み区域

☐ 翌日の復旧予定管路 ☐ 翌日の通水予定区域

(2) 応急復旧の手順・確認事項等

1) 応急復旧の手順

①被害情報の収集・整理

- ・水源から給水に至るまでの配水系統に沿って調査
- ・職員及び市民からの情報提供

②管路の被害が大きく広範囲で断水している地域では、基幹管路から最優先で復旧します

③災害拠点病院、2次救急医療機関、その他救急告示医療機関、人工透析病院、指定避難所、避難地、福祉避難所等へ送る管路を優先管路に位置付けており、応急復旧を進めます。

④復旧優先管路が復旧する見込み時に、給水区域を面で拡大する計画を立て、一定区域ごとの復旧を進めます。

⑤通水後、浄水班水質係は水質検査を行い、安全性を通知します。

2) 応急復旧方法の確認

①配水管の修繕

基幹管路の修繕は、早期復旧を見込んでいるため大口径(φ150)以上は仮設管(ステンレス管・鋳鉄管)で修繕して下さい。なお、小口径(φ100)以下は、既設管を直接修理して復旧して下さい。

②給水管の修繕

給水管は、被害の状況から修復範囲を確定しますが、大災害の場合は給水栓を1か所設けることもあります。その他は、既設給水管の破損個所を修復することとしています。

3) 復旧材料の確認

- | | | | |
|------------------------------|-------------------------------|------------------------------------|------------------------------|
| ☐ 管材料 | ☐ 配管方法 | ☐ 配管構造 | ☐ 仕切弁 |
| ☐ 消火栓 | ☐ 空気弁 | ☐ ボックス類の形状等 | |

4) 図面の提供

本市マッピングシステムから復旧する配管の形状を確認し、印刷後現地にて復旧作業に取り掛かって下さい。

5) 応急復旧作業記録

①漏水調査受付・報告書

応援隊は、様式-18【漏水調査受付書・報告書】を作成します。

②管路修理報告書

応援隊は、被害施設、被害状況、配管図(被災前・後)等を記載した様式-20【管路修理報告書】を修繕毎に作成します。

※位置図、掘削平面図、掘削断面図、配管状況図、使用材料表を記載

③工事写真等

災害復旧にかかる補助申請等を想定されることから、写真等のその他必要な資料について様式や記録媒体など局職員と協議した上で作成してください。

各作業現場の被害状況が分かるように記録するとともに、原則、着手前・掘削・修理前・修理後の配管・埋め戻し・路盤・舗装・完了まで一連の工種が確認できるよう撮影記録を整えて下さい。

デジタルカメラにより撮影されたデータは、本局職員へ手渡し、印刷して下さい。

【8】尾道市水道施設の特徴

(1) 上水道の構造及び特徴

○県用水と自己水源

広島県用水供給事業により、市域内約94%を賄っています

自己水源は、久山田にある貯水池（720,000m³）の水を導水管により長江浄水場へ送り、緩速ろ過方式で浄水処理を行っています

○配水方式

自然流下方式、但し一部地域において加圧給水しています

○市域の特性

- ・本市の地形は急峻な山々が多く、多数の配水池・ポンプ場を有しています
配水池：59箇所、ポンプ場：52箇所、調整池：4箇所、減圧槽：2箇所
- ・平均水圧は、0.45MPa 配水管：0.15MPa～0.7MPa)
- ・減圧弁：40箇所
- ・仕切弁 上水規格【右開】 広島県用水(分水点) JIS規格【左開】
- ・止水栓 甲型止水栓、ボール式止水栓の混在

○管路の管理

- ・配水管理センターによる一元管理
- ・管路はゼンリン地図を基図としたマッピングシステムを導入

○水道施設の状況（令和6年3月31日現在）

- ・水道施設耐震化率 89.3%
- ・基幹管路耐震化率 47.7%
- ・管路耐震化率 32.7%
- ・有収率 93.4%
- ・鉛管残存率 約0.4%

○使用資材

- ・導水、送水、配水管

ダクタイル鋳鉄管、鋳鉄管、鋼管、塩ビ管、PP管を使用しています

平成26年度以降は全口径に耐震管を使用

平成25年度以前はφ200以上に耐震管を一部採用

(2) バルブ類の特性

- ・ 仕切弁：右回し開、左回し閉
昭和62年以降はソフトシール仕切弁、鋳鉄仕切弁と併用
- ・ 消火栓：左回し開、右回し閉
- ・ 空気弁：急速型が標準、大口径は急速型75mm
- ・ 減圧弁：バイパスあり、バイパスなし、ピットあり、なし
- ・ 鉄蓋類：消火栓、空気弁の一部に丸型を使用、カギ付きタイプあり

(3) 給水管の特性

- ・ 修繕範囲

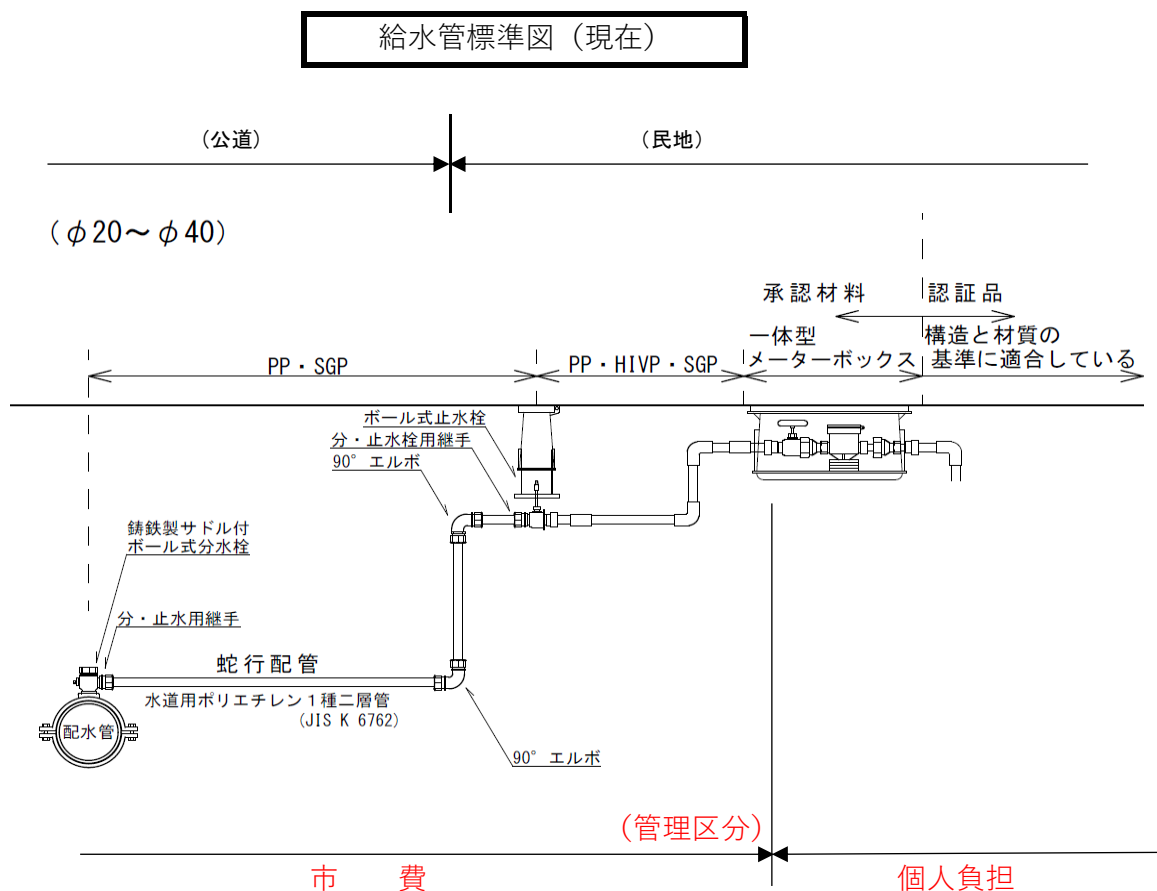
給水管は、個人の所有であるが、本市の管理区分ではサドル分水栓からメーターの1次側までの漏水は市費負担と定めており、その部分の漏水は局で修理をする。通常、給水管の漏水は原形復旧の修繕です。

- ・ 管種【標準】水道用ポリエチレン1種二層管

現在承認している給水管の管種は、PP管が標準としています
以前の管種は、HI・VPが主流でありS・90°ベンドを使用

- ・ 分水方式

サドル分水栓（φ20～φ40）



【9】 応急給水活動に関連する避難場所の一覧

応急給水活動を実施する場合は災害の発生状況、規模等によって異なります。そのため、本計画においては、『尾道市地域防災計画』の緊急避難場所や救急・救急医療機関等の決定に基づき応急給水活動を行うこととしております。

また、平成30年西日本豪災害において、市域全域に及ぶ15日間の断水が最大規模と想定しており、その時の応急給水活動を参考にしています。

- (1) 指定避難所（164箇所） 地域防災計画（P517～P521）
- (2) 福祉避難所（28箇所） 地域防災計画（P525）
- (3) 学校施設避難所（40箇所） 小学校24, 中学校16施設 地域防災計画（P530）
- (4) 避難ビル（3箇所） 地域防災計画（P524）
- (5) 指定緊急避難場所、自主避難場所（103箇所） 地域防災計画（P522～P524）
- (6) 救急告示医療機関（7医療機関） 上下水道局BCP別冊P10
- (7) 透析病院（3医療機関） 上下水道局BCP別冊P10

掲載元

- (1)～(5) 尾道市HP：尾道市地域防災計画より
- (6)～(7) 尾道市HP：尾道市業務継続計画（BCP）別冊より

【10】 尾道市水道事業の概要等

本市ホームページに尾道市水道事業の概要等が掲載されており、実際に応援隊が活動する時にはご参照ください。

- (1) 尾道市水道事業の概要
- (2) 尾道市上下水道事業ビジョン

様式集

被害・応援要請情報(様式2)

報告種別	報告者	報告番号	報告日	報告時間
被災都市⇒ブロック代表都市				

1. 基礎情報				2. 被害情報						3. 対応状況				
都道府県	①確認状況	②確認日時	③事業者名	④被害発生地区名	⑤被害発生状況・原因	⑥最大断水戸数	⑦家屋等損壊地域における戸数	⑧断水発生日時	⑨今後の断水の発生・拡大見込み	⑩現在断水状況		⑪応急給水		
										復旧戸数	未復旧戸数	応急給水状況 (給水車対応、飲料水の配給等)	応援要請状況	要請先と応援状況
合計	—		—	—	—	0	0	—	—	0	0	—	—	—

応援要請書【様式5】送付 枚 (内訳)

※本様式中【1. 基礎情報】～【3. 対応状況】は、厚生労働省が所定する報告様式に準じている(令和2年2月27日付け薬生水発0227第2号「自然災害発生時における被害状況の報告様式の改訂について」)。
このため、被災水道事業体は、本様式をもって都道府県水道行政担当部に報告することができる。
なお、これらの記載方法については、同通知を参照。

※被災水道事業体は、日水協に対し【新規】又は【追加】で給水車の応援を要請する場合、「⑪給水車応援要請」に必要台数を記載する(既に一度要請を行った台数は重複になるため記載しないことに留意(未到着等の台数を含む))。
都府県支部長等及び地方支部長は、それぞれの管内において応援可能な台数を「記入欄」に記載する。
日本水道協会救援本部は、他の地方支部からの応援可能台数を「記入欄」に記載する。

[illegible]

様式5

第	報	月	日	時	分
---	---	---	---	---	---

応 援 要 請 書

発信元		発信者	
災害発生年月日	令和	年	月 日 時 分
災 害 状 況			

要 請 内 容			
	応急給水 給水車 台 (うち加圧 台)	応急復旧 応急復旧班 班	その他
期 間 (月 日 ~ 月 日)	~	~	~
特 記 事 項			
集 合 場 所			
経 路 及 び 進 路 状 況			
備 考	【使用例】 ※集合場所は、応援派遣決定後、応援部隊ごとに決定します。 <u>応援決定の連絡は、防災担当(危機管理統括担当) ○○までお願いします。</u> <u>電話</u> FAX <u>Eメール</u> ;		

給水車準備・活動状況

報告種別	報告者	報告番号	報告日	報告時間

番号	確認日時		給水車									応援先			活動状況	活動 予定期間	搭乗者(代表)				備考
	月日	時刻	地方 支部	都府県 支部等	所有 事業体	車両情報						地方 支部	都府県 支部等	都市			事業体名	氏名	連絡先 電話番号	連絡先 メールアドレス	
						車両 登録番号	タンク 容量	加圧	参考情報(省略可)												
									最大 揚程	吐出量	注水口 形式										
1																					
2																					
3																					
4																					
5																					
6																					
7																					
8																					
9																					
10																					
11																					
12																					
13																					
14																					
15																					
16																					
17																					
18																					
19																					
20																					

応急給水応援体制報告書

作成日	年 月 日	派遣期間	月 日() ~ 月 日()
-----	-------	------	-----------------

記入上の 留意事項	・ 応援班到着時、応援班構成変更時に作成し、 現地の水道給水対策本部に提出
--------------	--

○応援班連絡先

事業体名		応急給水班数	班
隊長	氏 名 : 連絡先電話 :	車両総数	台
副隊長	氏 名 :		
給水要員	氏 名 :		
事務担当	氏 名 :		
	氏 名 :		
	氏 名 :		

○応援班構成

人 員	給水用具	車両台数 (タンク容量)	備 考
人			
人			
人			
人			
合 計			
人			

(表)

様式 13 (表)

(被災水道事業体用)

〇〇-〇〇-〇〇

応急給水作業指示書

整理番号
指示・報告等、一連の
工程を同一番号で管理

作成日	年 月 日	備考	
-----	-------	----	--

記入上の 留意事項	- 給水車ごとに作成 - 作業開始前にコピーを水道給水対策本部に提出 ●印箇所：水道給水対策本部が記入 ○印箇所：応急給水班が記入
--------------	--

●作業指示内容

事業体名	
給水車	号車 タンク容量 m ³ 加圧 有・無
給水拠点	
給水基地	
特記事項	

●作業指示者（尾道市水道災害対策本部）

事業体名	
担当者	氏 名： 連絡先電話：

○現地応急給水隊（応急給水班）

事業体名		作業員数	
隊長	氏 名： 連絡先電話：	車両ナンバー	

(裏)

様式 13 (裏)

(応援水道事業体用)

〇〇-〇〇-〇〇

整理番号

応急給水作業報告書

作成日	年 月 日	備考	
-----	-------	----	--

記入上の 留意事項	・時系列順に作業内容を記入 ・作業終了後、水道給水対策本部に提出
--------------	-------------------------------------

○作業内容 開始時間 終了時間

給水時間又は注水時間		給水拠点又は 給水基地	注水量	給水量	備考
1			m ³	m ³	
2			m ³	m ³	
3			m ³	m ³	
4			m ³	m ³	
5			m ³	m ³	
6			m ³	m ³	
7			m ³	m ³	
8			m ³	m ³	
9			m ³	m ³	
	: ~ :		m ³	m ³	
	: ~ :		m ³	m ³	
	: ~ :		m ³	m ³	
	: ~ :		m ³	m ³	
	: ~ :		m ³	m ³	
作業時間合計		時間 分			
給水量合計		m ³			
注水量合計		m ³			
特記事項 (給水場所の様子等を記入)					

応 急 給 水 作 業 予 定 表

作 成 日	年 月 日	備 考	
-------	-------	-----	--

記入上の 留意事項	・当日の給水作業開始直後、作業指示書【様式13(表)】を基に水道給水対策本部 が作成 ・給水活動の状況把握が目的
--------------	--

作 成 者	氏 名 : 連絡先番号 :
-------	------------------

NO.	事業体名	代表者氏名 連絡先番号	作業員数 (人)	タンク容量 (m ³)	加圧	給水拠点	備 考
1					有・無		
2					有・無		
3					有・無		
4					有・無		
5					有・無		
6					有・無		
7					有・無		
8					有・無		
9					有・無		
10					有・無		
11					有・無		
12					有・無		
13					有・無		
14					有・無		
15					有・無		
計	応援事業体数	給水車(台)	名	m ³	有 無	台(m ³) 台(m ³)	

応 急 給 水 作 業 集 約 表

作 成 日	年 月 日	備 考	
-------	-------------	--------	--

記入上の 留意事項	・当日の給水作業終了後、作業報告書【様式13(裏)】を基に水道給水対策本部 が作成 ・実際の給水活動の集約が目的
--------------	--

作 成 者	氏 名 : 連絡先番号 :
-------	-------------------------------

NO.	事業体名	給水車 台数	主な給水拠点	給水量	備 考 (給水車の内訳等を記入)
1				m ³	
2				m ³	
3				m ³	
4				m ³	
5				m ³	
6				m ³	
7				m ³	
8				m ³	
9				m ³	
10				m ³	
11				m ³	
12				m ³	
13				m ³	
14				m ³	
15				m ³	
計		0		0 m ³	

水道施設被害状況等調査票

第 報

令和 年 月 日 時 現在

被災地事業体名				水道事業数	上水道	
被災地区名		(上水道・簡易水道)			簡易水道	
地域形状		山間部 ☐	市街地 ☐		沿岸部 ☐	飲料水供給施設
全給水戸数	戸	全給水人口	人	地震名		
断水戸数	戸	断水人口	人	報告者		
復旧戸数	戸	復旧人口	人	連絡先	電話番号	Fax
応急給水状況 (記入欄が不足する場合は、別紙作成など適宜対応すること)						
給水車台数	給水車容量	給水地区又は施設	配車事業体	注水場所	応急給水時間	給水予定期間
今後の見通し						
被害状況調査			応急復旧状況			
	被害状況	補足コメント	復旧状況	復旧時期	補足コメント	資機材調達等
水源・取水施設	未確認 ☐		未定 ☐			
	被害大 ☐		計画中 ☐			
	被害小 ☐		復旧中 ☐			
	被害無 ☐		完了 ☐			
導水施設	未確認 ☐		未定 ☐			
	被害大 ☐		計画中 ☐			
	被害小 ☐		復旧中 ☐			
	被害無 ☐		完了 ☐			
浄水施設	未確認 ☐		未定 ☐			
	被害大 ☐		計画中 ☐			
	被害小 ☐		復旧中 ☐			
	被害無 ☐		完了 ☐			
送水施設	未確認 ☐		未定 ☐			
	被害大 ☐		計画中 ☐			
	被害小 ☐		復旧中 ☐			
	被害無 ☐		完了 ☐			
配水施設	未確認 ☐		未定 ☐			
	被害大 ☐		計画中 ☐			
	被害小 ☐		復旧中 ☐			
	被害無 ☐		完了 ☐			
配水管路	未確認 ☐		未定 ☐			
	被害大 ☐		計画中 ☐			
	被害小 ☐		復旧中 ☐			
	被害無 ☐		完了 ☐			
給水施設	未確認 ☐		未定 ☐			
	被害大 ☐		計画中 ☐			
	被害小 ☐		復旧中 ☐			
	被害無 ☐		完了 ☐			
補足事項						
高速・一般道路状況など						
携帯電話等の通信状況						
宿泊施設の営業状況						
コンビニ等の営業状況						
給油スタンドの営業状況						
その他						

（表）

No. ○

応急復旧応援体制報告書

作成日	年 月 日	派遣期間	月 日（ ） ～ 月 日（ ）
-----	-------	------	-----------------

記入上の 留意事項	・応援班到着時、及び応援班構成変更時に作成し、 現地の水道給水対策本部に提出する
--------------	---

○応援班連絡先

事業体名		通水及び 漏水調査班数	班
総括責任者	氏 名： 連絡先電話：	応急復旧班数	2 班

○応援班構成

作業内容	人 員（人）	持参資機材等	備 考
総括班 （連絡調整）	人		
総括班 （記録）	人		
通水及び漏水調査班 （通水及び漏水調査）	人		
修理班 （配水管、給水管修理）	人		
修理班 （配水管、給水管修理）	人		
合 計	人		

(応援水道事業体用)

月 日提出

[illegible]

(表)

〇〇—〇〇—〇〇

漏水調査受付書

整理番号
受付・現地調査・修理等、一連の工程を同一番号で管理

記入上の 留意事項	・ 通報者から可能な限り詳細を聞き取る。 ・ 住宅地図、配管図に漏水箇所を明示し添付。
--------------	---

受付番号	〇〇—〇〇
受付日時	年 月 日 曜日 時 分
通 報 者	氏名 : 連絡先電話 : 住所 :
受 付 者	事業体名 : 氏名 : 電話 : 090-1111-****

場 所		
漏水状況	場 所	☐ 道路（車道・歩道・私道・その他） ☐ 宅地内（メータ上流・下流）
	舗 装	☐ アスファルト ☐ コンクリート ☐ 砂利 ☐ その他（ ）
	道 路	☐ 陥没 ☐ 隆起 ☐ 割裂 ☐ 損傷なし ☐ その他（ ）
	漏 水	☐ 漏水中 ☐ 漏水痕 ☐ その他（ ）
	漏水量	☐ 大 ☐ 中 ☐ 小
備 考		

〇〇—〇〇—〇〇

整理番号

(裏)

漏水調査報告書

記入上の 留意事項	・ 現地調査後に記入し、水道給水対策本部に提出。 ・ 仮配管、仕切弁新設等、管路を修理しない復旧工事について備考欄に内容を記載。
--------------	--

調査番号	〇〇 - 〇〇	
調査日時	年 月 日 曜日 時 分	
調査担当者 (代表者)	事業体名 : 氏名 : 電話 :	
場 所		
漏水状況	区 分	☐ 道路 (車道・歩道・私道・その他) ☐ 宅地内 (メータ上流・下流)
	舗 装	☐ アスファルト ☐ コンクリート ☐ 砂利 ☐ その他 ()
	道 路	☐ 陥没 ☐ 隆起 ☐ 割裂 ☐ 損傷なし ☐ その他 ()
	漏 水	☐ 漏水中 ☐ 漏水痕 ☐ 修理済み ☐ その他 ()
	漏水量	☐ 地上流出 (大 中 小) ☐ 地下流出 (大 中 小)
漏水確認	残 塩	☐ あり (mg/l) ☐ なし
漏水管路	☐ 導水管 ☐ 送水管 ☐ 配水管 (配水本管・配水支管)	
	☐ 給水管 (メーター上流) ☐ 給水管 (メーター下流) ☐ 不明	
修 理	必要性	☐ あり ☐ なし ☐ 経過観察
	緊急性	☐ 高い ☐ 通常 ☐ 低い ☐ その他 ()
備 考	※ 修理者に対して指示がある場合は具体的に記入してください。	

応急復旧活動対応表

活 動 日		被災事業体名
記入責任者	氏名：	連絡先電話：

記入上の 留意事項	・当日の受付状態、漏水調査班、管路修理班の動向を把握することが目的 ・PCで管理することで住所検索等が容易となり、修理依頼等の重複を防止することが可能
--------------	--

整理 番号	漏水受付							漏水調査			漏水修理				備 考 (受付番号等)
	日時	事業体名	漏水場所					調査日	事業体名・氏名	修理	依頼日	完了日	事業体名・監督員	施工業者名・担当者	
		受付者	市(区)	町	丁目	番地	住宅・地先名		連絡先電話		時間	時間	連絡先電話	連絡先電話	
1										要・不要					
2										要・不要					
3										要・不要					
4										要・不要					
5										要・不要					
6										要・不要					
7										要・不要					
8										要・不要					
9										要・不要					
10										要・不要					
										要・不要					
										要・不要					

現場見取り図

配管図 (施工前)

配管図（施工後）

使用材料集計

[illegible]

管 路 修 理 集 約 表

(被災水道事業体用)

活 動 日		被災事業体名：
記 入 者	氏名：	連絡先電話：

記入上の留意事項	資料－14管路修理報告書の集約に使用する。
----------	-----------------------

No. 

番号	管路区分	管路属性			被害形態		被害施設住所					施工日		施 工 者			備 考 (修理指示番号等)
		管 種	口 径	継 手	管 路	付属設備	市(区)	町	丁目	番地	住宅・地先名	開 始	完 了	地方支部名	事業体名	業者名	
1																	
2																	
3																	
4																	
5																	

導水管	DIP、CIP	印籠型	継手抜け	機能不全
送水管	SP、VP、	A型、K型	継手漏水	破損
配水管(本・支)	PE等を	T型、NS型	管体破損	等を記入
給水管	記入	溶接、ねじ	継手破損	
(メカ上・下流)		TS、RR	属具破損	
を記入する		電気融着	その他	
		等を記入	不明	
			等を記入	

管路被害算定表 (管種・口径・被害形態別)

作成日時	月 日 時現在	被災事業体名：	記入上の 留意事項	管種・継手形状ごとに分類 し集計する。
記入者	氏名：	連絡先電話：		

管種・継手		CIP-A						VP-TS					
被害形態		継手抜け	継手漏水	継手破損	管体破損	不明	付属設備	継手抜け	継手漏水	継手破損	管体破損	不明	付属設備
口径	40mm												
	50mm												
	75mm												
	100mm												
	125mm												
	150mm												
	200mm												
	250mm												
	300mm												
	350mm												
	400mm												
	500mm												
	600mm												
	700mm												
	800mm												
	mm												
	mm												
	mm												
小計 (件)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
管路延長 (km)		0						0					
被害率 (件/km)		#DIV/0!						#DIV/0!					

※被害率の算出にあたっては、付属設備の被害件数を除く

管種・継手													
被害形態		継手抜け	継手漏水	継手破損	管体破損	不明	付属設備	継手抜け	継手漏水	継手破損	管体破損	不明	付属設備
口径	40mm												
	50mm												
	75mm												
	100mm												
	125mm												
	150mm												
	200mm												
	250mm												
	300mm												
	350mm												
	400mm												
	500mm												
	600mm												
	700mm												
	800mm												
	mm												
	mm												
	mm												
小計 (件)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
管路延長 (km)		0						0					
被害率 (件/km)		#DIV/0!						#DIV/0!					

※被害率の算出にあたっては、付属設備の被害件数を除く

合 計	継手抜け	継手漏水	継手破損	管体破損	不明	付属設備
	0	0	0	0	0	0
0						
管路全延長 (k m)	0.0					
被害率 (件/ k m)	#DIV/0!					

給水管被災状況及び修繕報告書(道路内)

(管轄事業所名:)

整理番号	
修繕日	
管理図番号	
担当事業体	
請負業者名	

場 所											
埋 設 管	種別	上水	口径	φ	布設年度	年度	深度	m			
	材質	☐ 鉛管 ☐ HVP ☐ FC ☐ FCD ☐ その他 ()									
	舗装種別	☐ アスファルト ☐ コンクリート ☐ 無し ☐ その他 ()									
被 災 状 況	道路	☐ 陥没 ☐ 隆起 ☐ 割裂 ☐ その他 ()									
	箇所	☐ 配水管との分岐部 ☐ 道路上の給水管 ☐ 道路上の止水栓(前・後) ☐ 道路側溝横断部, 道路宅地境界 ☐ その他 ()									
	内容	☐ 抜け ☐ 折れ ☐ 破断 ☐ ゆるみ ☐ その他 ()									
	復旧方法	☐ 原型復旧 ☐ キャップ止め ☐ 置コマ止め ☐ 止水栓止め ☐ 仮配管 ☐ その他 ()									
位 置 図 (別図を添付してもよい)					掘 削 図 (平面図・断面図)						
配 管 図 道路 宅地					舗装厚 アスファルト _____ cm コンクリート _____ cm 路盤厚 _____ cm						
					埋戻土 ☐ 購入土 ☐ 流用土 ☐ 掘削土打って返し						
					残土処分 ☐ 指定地直送 ☐ 仮置 ☐ 自由処分 ☐ なし						
使用材料	支 給 材 料			請 負 業 者 調 達 材 料							
	名 称		数 量	名 称		数 量	名 称		数 量		

※修繕の各工程及び被災状況について巻尺等により寸法・工事数量が確認できる写真を必ず撮影して, 本報告書に添付してください。

給水管被災状況及び修繕報告書(宅地内)

(管轄事業所名:)

整理番号	
修繕日	
管理図番号	
担当事業体	
請負業者名	

場 所								
埋 設 管	種別	上水	口径	φ	布設年度	年度	深度	m
	材質	☐ 鉛管 ☐ HVP ☐ FC ☐ FCD ☐ その他 ()						
	舗装種別	☐ アスファルト ☐ コンクリート ☐ 無し ☐ その他 ()						
被 災 状 況	家屋	☐ 陥没 ☐ 隆起 ☐ 割裂 ☐ その他 ()						
	箇所	☐ 配水管との分岐部 ☐ 道路上の給水管 ☐ 道路上の止水栓(前・後) ☐ 道路側溝横断部, 道路宅地境界 ☐ その他 ()						
	内容	☐ 抜け ☐ 折れ ☐ 破断 ☐ ゆるみ ☐ その他 ()						
	復旧方法	☐ 原型復旧 ☐ キャップ止め ☐ 置コマ止め ☐ 止水栓止め ☐ 仮配管 ☐ その他 ()						
位 置 図 (別図を添付してもよい)				掘 削 図 (平面図・断面図)				
配 管 図 道路 宅地				舗装厚 アスファルト _____ cm コンクリート _____ cm 路盤厚 _____ cm				
				埋戻土 ☐ 購入土 ☐ 流用土 ☐ 掘削土打って返し				
				残土処分 ☐ 指定地直送 ☐ 仮置 ☐ 自由処分 ☐ なし				
使用材料	支 給 材 料		請 負 業 者 調 達 材 料					
	名 称	数 量	名 称	数 量	名 称	数 量		

※修繕の各工程及び被災状況について巻尺等により寸法・工事数量が確認できる写真を必ず撮影して, 本報告書に添付してください。